

平成 26 年 7 月 29 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 当麻 茂樹
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 27 年 3 月期 第 1 四半期決算について
 ~通期業績目標達成に向け、まずは順調な立ち上がり~

当行の、平成 27 年 3 月期第 1 四半期の連結四半期純利益は 199 億円、同キャッシュベース¹ 四半期純利益は 219 億円、単体四半期純利益は 167 億円となり、通期業績予想である連結当期純利益 550 億円、キャッシュベース¹ 純利益 620 億円の達成に向け、まずは順調な立ち上がりとなりました。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成27年3月期 第1四半期(3か月) (a)	平成26年3月期 第1四半期(3か月) (b)	増減 (a)-(b)
業務粗利益	578	505	73
経費	△350	△326	△23
実質業務純益	228	178	50
与信関連費用	7	0	6
四半期純利益	199	127	72
キャッシュベース ¹ 四半期純利益	219	150	69

¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

- **業務粗利益**は、前第 1 四半期の 505 億円から 73 億円増加し、当第 1 四半期は 578 億円。資金利益は、調達コストの減少に加えて、コンシューマーファイナンス業務の貸出増加や法人部門での有価証券配当収入の増加などにより、前第 1 四半期比 39 億円増加し、309 億円。非資金利益は、国内クレジットトレーディング業務での堅調な収益獲得に加え、ALM 業務での国債等債券損益の改善などにより、前第 1 四半期比 34 億円増加し、269 億円。
- **経費**は、戦略分野における積極的な経営資源投入の結果、人件費や宣伝広告費の増加により、前第 1 四半期の 326 億円から 23 億円増加し、当第 1 四半期は 350 億円。
- **与信関連費用**は、不良債権処理に伴う貸倒引当金取崩益の計上や、資産の質の良化により、前第 1 四半期の 0 億円(95 百万円)の益から当第 1 四半期は 7 億円の益。
- **連結四半期純利益**は、経費の増加を業務粗利益の増加が上回ったことから、前第 1 四半期の 127 億円から 72 億円増加し、当第 1 四半期は 199 億円。
- **単体四半期純利益**は、業務粗利益の増加や与信関連費用の改善などから、前第 1 四半期の 84 億円から 82 億円増加し、当第 1 四半期は 167 億円。
- **総資産**は、平成 26 年 3 月末の 9 兆 3,211 億円から 2,178 億円増加し、平成 26 年 6 月末は 9 兆 5,389 億円。貸出金は平成 26 年 3 月末の 4 兆 3,198 億円から 1,028 億円減少し、平成 26 年 6 月末は 4 兆 2,170 億円。

資本および資産の質

- 内部留保の着実な積み上げと不良債権の削減により、連結コア自己資本比率(バーゼル 3、国内基準)は、平成 26 年 3 月末 13.58%から平成 26 年 6 月末は 14.14%へと改善。
- 不良債権残高は引き続き減少し、不良債権比率は平成 26 年 3 月末の 3.81%から平成 26 年 6 月末は 3.12%へと改善。また、保全率も 95.9%と引き続き高い水準を維持。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「決算・財務情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/investors/ir/financial_info/quarterly_results/index.html

以上

お問い合わせ先
 新生銀行 IR・広報部 高橋、江口
 Tel.03-6880-8303